

# パネル文学展のご案内

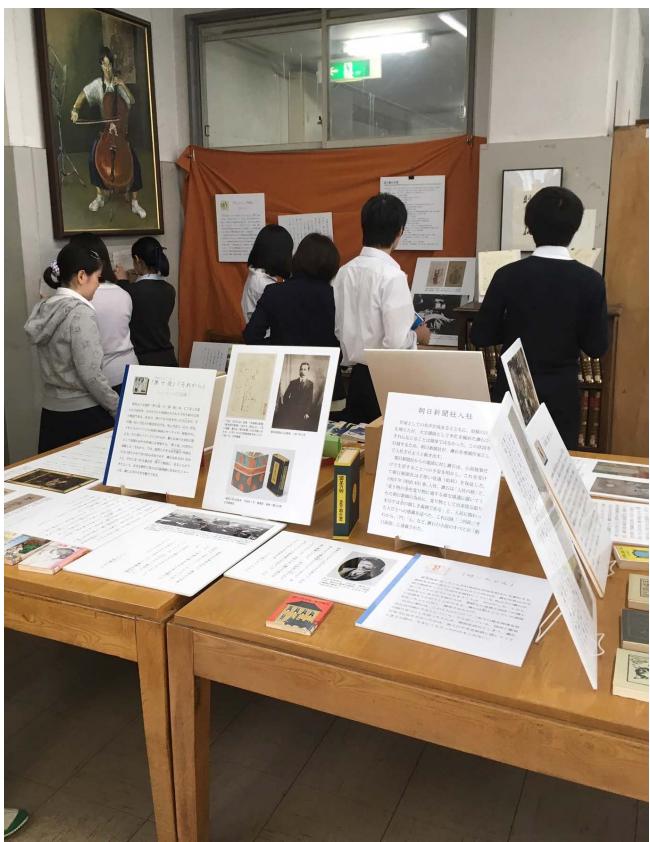
神奈川近代文学館では、学校図書館や文化祭での展示や授業のために、6種類のパネル文学展を用意しています。いずれも過去に当館で開催した展覧会を20～50点のパネル文学展に再構成したものです。2008年（平成20）に開始したパネル文学展の観覧者は累計339校、約28万人（2025.3現在）を数えています。貸し出しをご希望の方は、メールフォームまたはFAXでお申し込み下さい。（詳細は本案内2ページ目の【申込方法】を、各パネル展の全体見本はページ末尾をご覧下さい。）

図書室や文化祭で  
文学展を開いてみませんか？  
データ版はパワーポイントや  
オンライン授業にも！  
公共図書館等でもご利用ください。

## 〈パネル文学展メニュー〉

- ①夏目漱石展（データ版あり）
- ②中島敦展（データ版あり）
- ③森鷗外展
- ④太宰治展
- ⑤与謝野晶子展
- ⑥佐藤さとる『コロボックル物語』展

## 展示風景 2018年パネル文学展「夏目漱石」を開催した横須賀高校の展示風景とアンケート



原稿の表現とかを直したあとがたくさんあって、こういうのは初めて見たけど、おもしろいと思った。一生徒

パネル展を観覧して、漱石の作品は漱石の人生の影響を大きく受けていたことが分かりました。一生徒

順番に観ていくと漱石のエピソードや作品のあらましが概ね理解できるようになっており、コンパクトですが内容の濃いパネルであると思いました。人気のコミックの絵もあり、生徒たちの導入として良いですね。一教員



作品は読んだことがありました。作者の性格や人生を知った上でもう一度読んでみたら、また違ったとらえ方ができそうです。こういった展示は大切な感じました。一保護者

## 【貸出について】

- (貸出期間) 1か月を目途に、協議のうえ決定。
- (貸出料) 無料。
- (パネル点数) 約30～50点（展示スペース等に応じて展示点数を減らすこともできます。）
- (運搬) 宅配便、公用車など展示パネルの運搬にかかる経費は利用者が負担。  
宅配便の概算額＝往復約5,000円。  
データ版（夏目漱石、中島敦のみ）はCD-ROM（要返却）を送付します。
- (報告) 返却時に、観覧者（利用者）数などの報告が必要です。会場スナップ写真や生徒さんの感想等ありましたら添えてください。
- (その他)
- \*展示会は開催者と県立神奈川近代文学館・公益財団法人神奈川文学振興会との共催とする。
  - \*関連図書などによる補足展示などアレンジ可。
  - \*文学館紹介パネル、ポスター等の掲示にご協力ください。
  - \*肖像、資料のパネル展示に必要な著作権者等の許諾手続きは文学館が処理済です。
  - \*数に限りがあるため、予定が決まりましたらお早めにお申込ください。

## 【申込方法】

下記内容をFAXでお送りいただかずか、神奈川近代文学館ホームページ内「パネル文学展」に記載の  
メールフォーム（<https://kanabun-or-jp.prm-ssl.jp/paneruten.html>）からお申込下さい。  
折り返し御連絡し、スケジュールなどについて打ち合わせを行います。



また、御不明の点は隨時下記までお問い合わせ下さい。

県立神奈川近代文学館 担当：総務課・加藤

〒231-0862 横浜市中区山手町110 TEL 045-622-6666 / Fax 045-623-4841 / event@kanabun.or.jp

---

### 神奈川近代文学館 パネル文学展利用希望FAX送信用紙

学校名など団体名：

御希望のパネル文学展名：

御希望の利用期間と運搬方法：

利用の目的（例・文化祭展示、高3国語科オンライン授業）：

展示会場： ○をお付け下さい。

教室      図書館      常設の展示スペース      その他（ ）

御担当者のお名前・職名：

電話番号：

メールアドレス：

その他：御質問など

# パネル文学展 内容のご案内

## 1. 夏目漱石展（データ版あり）

2016年春開催の特別展「100年目に出会う 夏目漱石」のダイジェスト版。肖像写真、原稿、絵画のほか、漱石の遺族から寄贈いただいた東京・早稲田南町の〈漱石山房〉に残された遺品などによって漱石の全体像をわかりやすく紹介します。

### 漱石が描いた絵

漱石は、子どものころ、よく歳の内で絵を描めていたそうです。イギリス留学から帰るとき水彩画の習作に励み、明治末年ころからは、画家・津田青楓を師に、山水画や水墨画に取り組みました。漱石は精神的に不安定になると、絵を描いたといいます。書画に没頭する時間は、執筆で疲れたら心を蘇生するひとときとして、漱石を支えていたと考えられます。

「漱石山房図」(1913年(大正2))ころ  
文学館蔵

「書斎図」(1913年)早稲田南町の家の書斎を描いた作品。文学館蔵

### 漱石の書斎

東京市山手町にあった漱石の書斎。1917年(大正6)撮影。窓邊木曜日午後3時以後とさながらられた翌日(大晦日)には小笠原謙吉はじめ、寺田寅彦、狩野三重吉、森田信平、内田百重、芥川龍之介ら多くの若き作家が集い、夜遅くまで漱石との談話にふけった。

漱石にとって書斎は、執筆のための特別な空間でした。万年筆や特製の原稿用紙はもちろん、印章、文箱などの品々はいずれも、漱石が好んで選んだものばかりです。

漱石特製原稿用紙の封筒。漱石の名前を手書きで記した封筒を手渡した際の返事用紙。

印・木村利吉作「漱石用」(1917年)。書斎の奥で作業する漱石の写真。彼の左隣に座る女性の名前は、彼の母であるお母さん。面白がるような音符と表わされ、面白がって部らせたといいう。文学館蔵

「下宿」(永日小品)原稿。「大阪朝日新聞」(1909年1月)に掲載。漱石は「朝日新聞」の文学欄に合わせ、19字×10行の原稿用紙をあつらえて使った。文学館蔵

朝日新聞社入社直後 1907年5月

「山家草人」初版本 1908年1月 春陽堂 装幀・構口五郎著

## (夏目漱石展開催実績)

2008～2024年度：144校（旧版を含む、うちデータ版20校）／2024年度開催：県立神奈川総合産業高等学校、県立大和西高等学校、県立金井高等学校、県立港北高等学校、玉川学園、横浜市立仲尾台中学校、東京都立桜修館中等教育学校、鎌倉市立手広中学校（開催順 以下同）

## 2. 中島敦展（データ版あり）

2019年秋開催の特別展「中島敦展—魅せられた旅人の短い生涯」のダイジェスト版。教科書にも取り上げられ、今日多くの人々を惹きつけている「山月記」をはじめとする作品のほか、作家としてデビューするまでの軌跡や教師としての素顔も紹介しています。希望校には、中島敦が横浜高等女学校教員時代に作成した国語の試験問題（コピー・配布可）も合わせて提供します。

### 中島 敦展

Exhibit of Atsushi Nakajima

講話をさす 1934年(昭和9) 横浜高等女学校で

中島敦(1909～1942)は、中学のころから作家になりたいという希望を持っていたが、夢はなかなか叶いませんでした。1933年(昭和8)、大学卒業した中島は、横浜高等女学校(現・横浜学園高等女学校)の教師になります。8年勤務したのち、1941年、32歳のときに横浜の旅館で死んでしまう。教師を辞め本格的に活動にあたった前野静、ハサウエ役員として勤任、約8ヵ月滞在しました。翌年2月、横浜時代に書いた「山月記」「文字館」が雑誌「文学界」に掲載され、中島は知らないうちに文壇デビューを果たします。3月に帰京し、中島は恋愛の作家として活動しますが、同年12月、志かばにいて死去しました。

中島が遺した著書は2冊、発表した作品は20数種ですが、いつも人々に愛され、読み継がれています。今回は中島の短くも起伏に富んだ人生を旅と捉えて紹介します。さらに、今後の時代における、作品の広がりにもスポットをあけます。

### 旅の終わり——トファ(現れ)ツツラ

1942年(昭和17)3月、中島はパラオから帰京します。2ヶ月ぶりの「文学界」5月号に掲載された「光と風と夢の対評」で、中島のものには物語依頼が相次ぎました。冬が近づくにつれて徐々に海賊化しますが、中島は執筆を通じて抗ある想像の世界で、数十年の風を経えた旅を続けるます。舟身をおしてたか西野記「弟子」(名出)・川端・向島道などの執筆、推進を重ね、危険の作家として奇譲の如うな8ヶ月を過ごしましたが、この年の12月4日、33年の短い生涯を閉じました。

横浜高等女学校のクラス会で 1942年3月26日 招待されたクラスの教員たちと。生徒最後に贈られた写真といわれます。

### 生きている中島敦——現代における活がり——

#### II. 「文豪ストレイドッグス」

明治横浜を舞台に、文豪の名を鏗くキャラクターたちが、それぞれの若者に伝ひ育む異能力で戦う漫画「文豪ストレイドッグス」(原作・朝霧カズ、漫画・森河35)。作品の主人公は(中島敦)。歴史孤高を説いて出されて路頭に迷うが、武装探偵社に所属する太宰治に異能力「月下降」を見出されて、探偵社の一員となる。「文豪ストレイドッグス」をきっかけとして、中島敦の作品に親しむ新たな読者も生まれています。

「山月記」(中島敦著)

「文豪ストレイドッグス」(原作・朝霧カズ、漫画・森河35)のイラスト

©朝霧カズ・森河35 KADOKAWA

## (中島敦展開催実績)

2008～2024年度：96校（旧版を含む、うちデータ版23校）／2024年度開催：県立横須賀高等学校、東京純心女子高等学校、搜真女学校、玉川学園、県立川崎高等学校、県立神奈川総合産業高等学校、川崎市立幸高等学校、県立永谷高等学校、県立横須賀南高等学校

### 3. 森鷗外展

2009年（平成21）に開催した「森鷗外展—近代の扉をひらく」のダイジェスト版。鷗外の肖像写真をはじめ、「舞姫」原稿、ドイツ留学ゆかりの品、子どもたちの写真、遺言書、著書初版本などで近代文学の世界を拓いた鷗外の生涯と作品世界を紹介します。

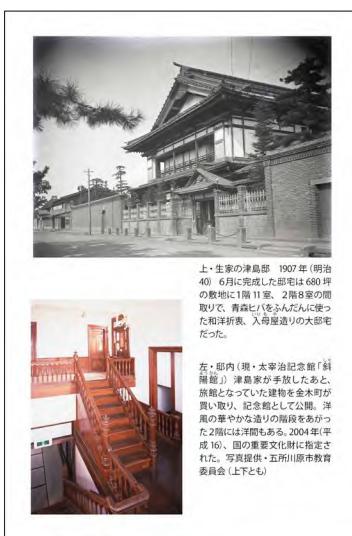


#### （森鷗外展開催実績）

2009～2024年度：31校、2機関／2024年度開催：県立神奈川総合産業高等学校

### 4. 太宰治展

2014年（平成26）春に開催した「太宰治展—語りかける言葉—」のダイジェスト版。没後60年以上の歳月を経てなお、多くの人々を惹きつける作品世界と、名作を生み出した苦闘の生涯を、肖像写真や原稿を通して紹介します。



#### （太宰治展開催実績）

2014～2024年度：51校、1機関／2024年度開催：横浜市立岡津中学校、県立永谷高等学校、県立横浜氷取沢高等学校、二宮町立二宮中学校、横浜市立新羽中学校、県立横浜修悠館高等学校、県立神奈川総合産業高等学校、県立愛川高等学校、横浜女学院中学校高等学校、横浜雙葉中学高等学校

## 5. 与謝野晶子展

2018年春、生誕140年を記念して開催した「与謝野晶子展—こよひ逢ふ人みなうつくしき」のダイジェスト版。第一歌集『みだれ髪』で新しい詩歌の時代を築き上げ、幅広いジャンルで活躍した情熱的な生涯を、草稿、書簡、短冊、遺品、著書初版本などで紹介します。

(与謝野晶子展開催実績)

2018～2024年度：15校／2024年度開催：県立川崎高等学校、県立西湘高等学校、東京純心女子高等学校、フェリス女学院高等学校

## 6. 佐藤さとる「コロボックル物語」展

2007年夏開催の『佐藤さとる『コロボックル物語』展』をもとに製作。日本を代表する児童文学作家・佐藤さとるの生涯と「コロボックル物語」誕生の背景を、肖像写真や原稿などの資料で親しみやすく紹介しています。全体の内容についてはお問い合わせください。

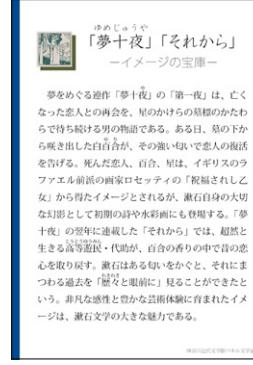
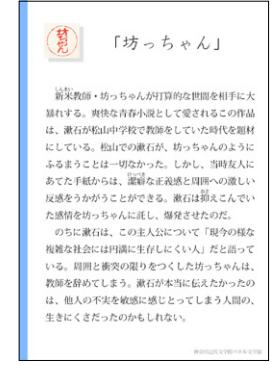
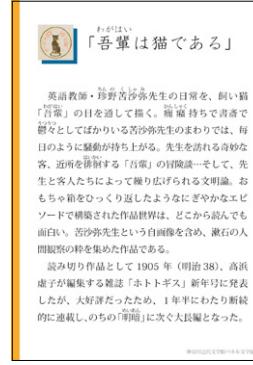
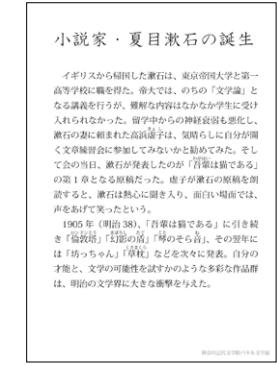
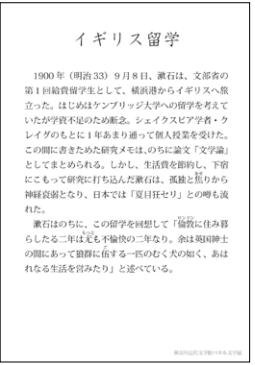
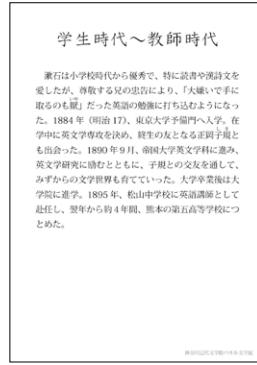
(佐藤さとる展開催実績)

2013～2024度：23校、3機関／2021～2024年度開催：横浜富士見丘学園、横浜市中央図書館、横浜女学院中学校高等学校

※パネル展1～5については、ご希望があれば「文豪ストレイドッグス」パネルも合わせて提供。その他ワークシートもあります。

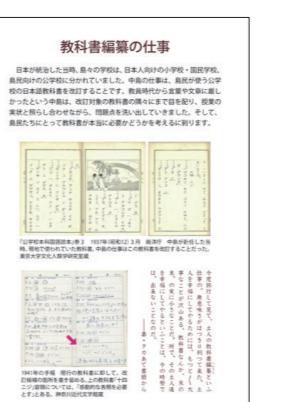
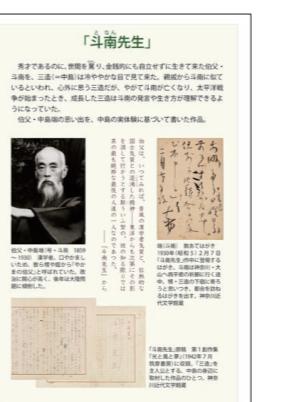
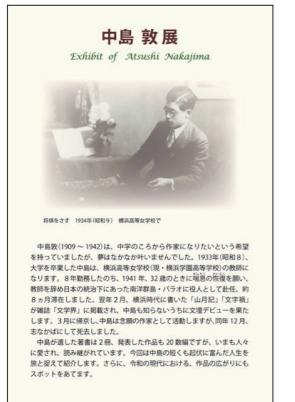
# パネル文学展「夏目漱石」一例（基本構成）

用途に合わせて、抜粹してお使い頂くことも可能です。横型もご提供もできます。



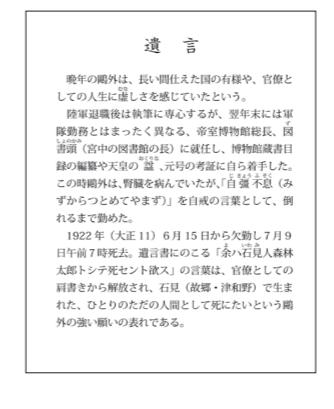
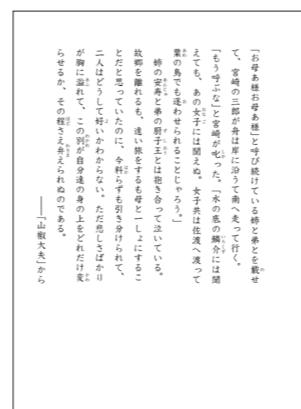
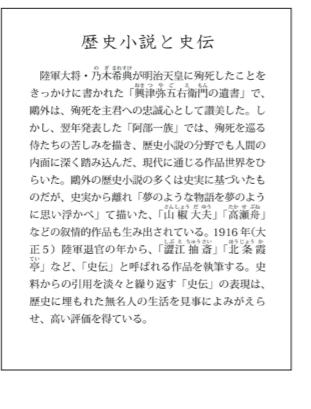
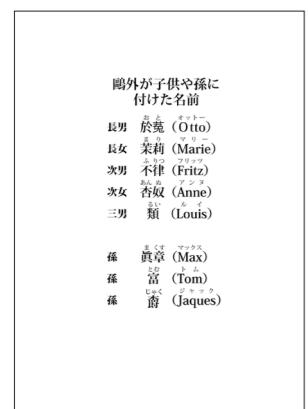
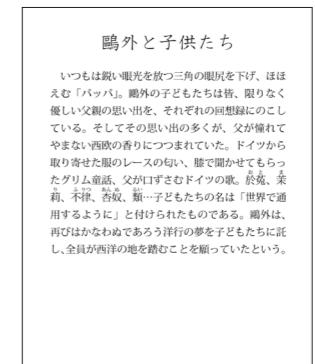
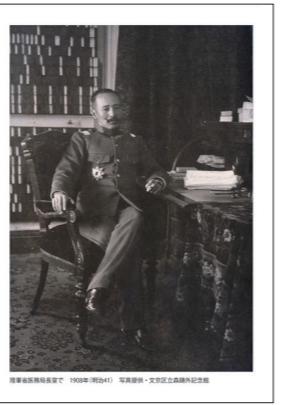
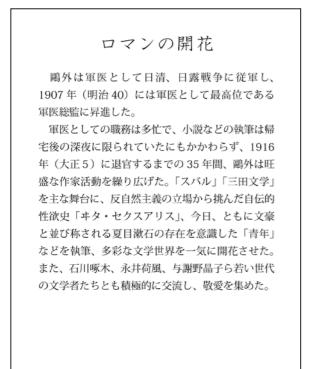
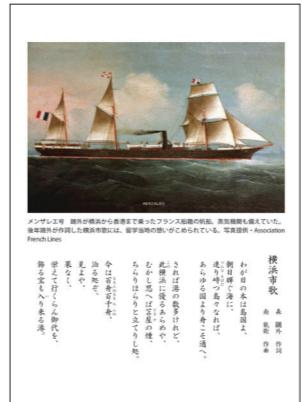
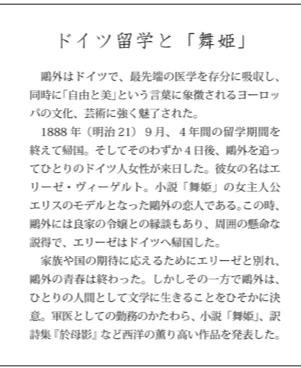
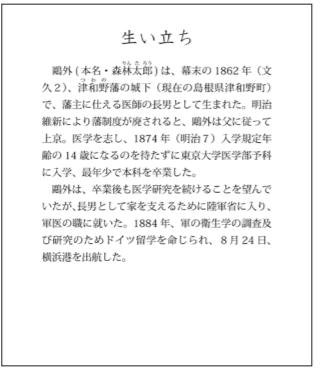
## ネル文学展「中島敦」 一例（基本構成）

あわせて、抜粋してお使いいただくことも可能です。

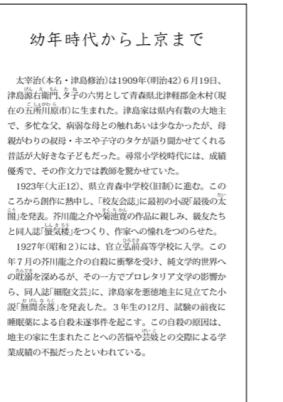
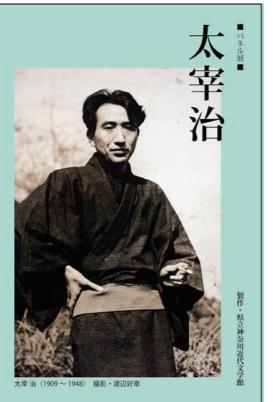


## ネル文学展「森鷗外」 一例（基本構成）

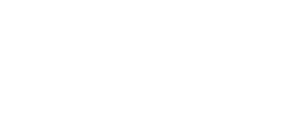
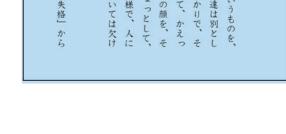
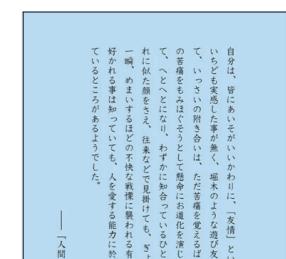
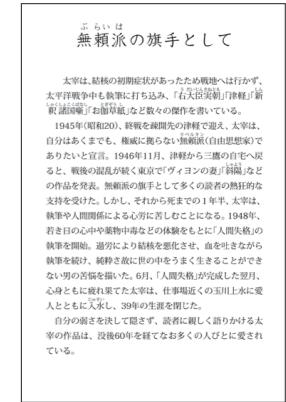
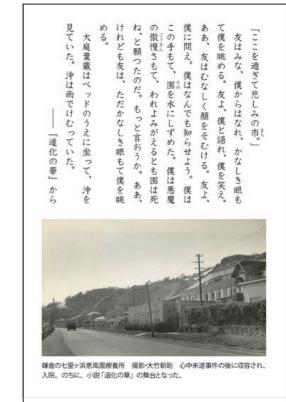
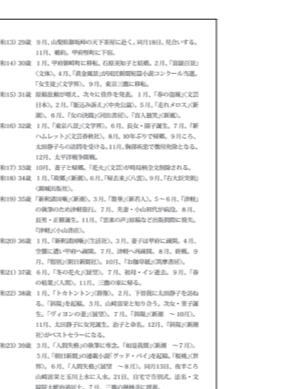
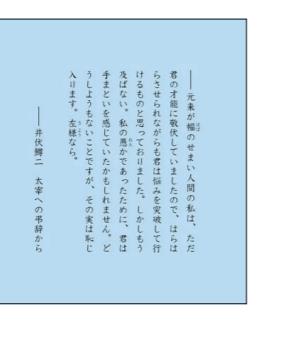
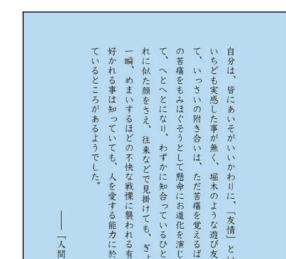
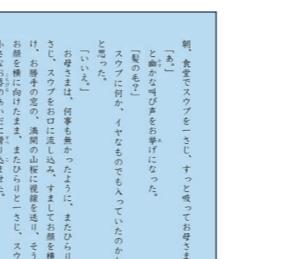
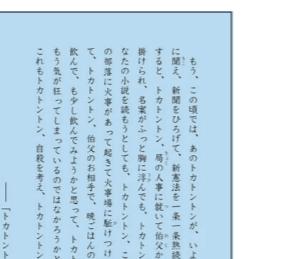
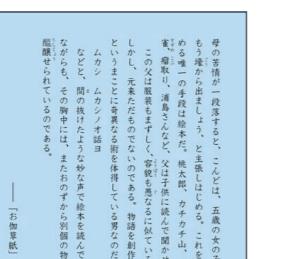
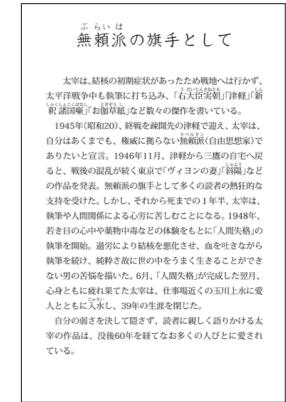
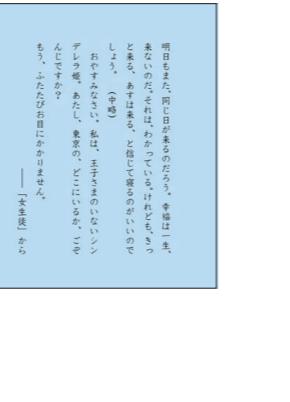
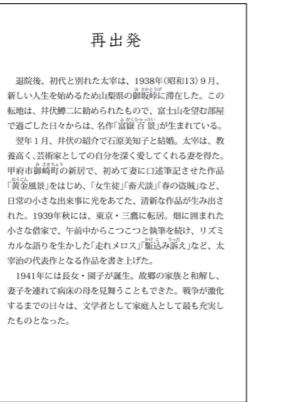
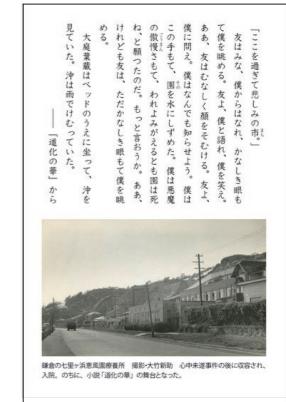
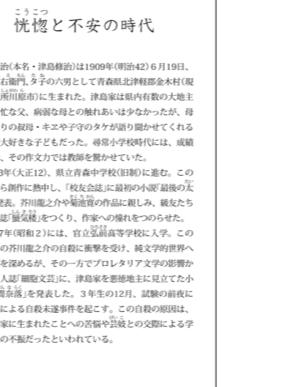
途中にあわせて、抜粋してお使いいただくことも可能です。



# パネル文学展「太宰治」一例（基本構成）

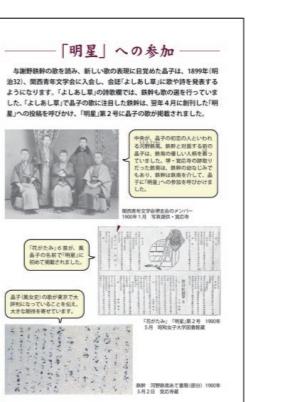
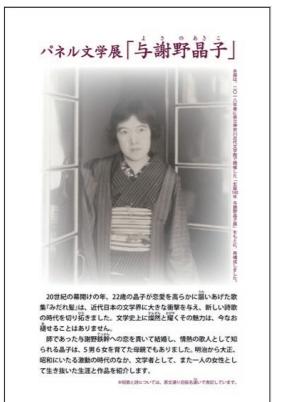


用途にあわせて、抜粋してお使いいただくことも可能です。



# パネル文学展「与謝野晶子」 一例（基本構成）

用途にあわせて、抜粋してお使いいただくことも可能です。



# ペネル文学展「佐藤さとる『コロボックル物語』」 一例（基本構成）

## コロボックルってなんのこと？

日本には、昔から二つの小人の話が伝わっています。アイヌ民族に伝わるコロボックルと、古事記に出てくる少彦名命の伝説です。コロボックルと少彦名命には、カガミイモという実のやさで舟に升ることなど、共通点があるて、もとは同じ小人の一族だった可能性があります。

コロボックル物語に登場する小人は、地元の人たちには「こぼしさま」と呼ばれ、先祖は「スクナヒコサマ」、別名・コロボウシとかコロボッ子ともいわれています。アイヌ伝説のコロボッ

身長は約3センチ、あまりにばしゃっこいので人間の目にとまらず、話しているのは日本語ですが、早口すぎて、ふつうの人には「ルルルル……」としか聞こえません。



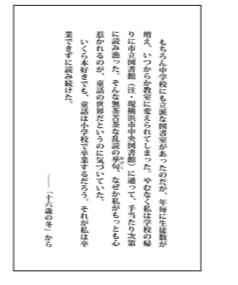
# 佐藤さとるの少年時代



用途にあわせて、抜粋してお使いいただくことも可能です。

小学校5年の初夏、思い出深い記念日を経て横浜市戸田に引っ越しました。1940年(昭和15)、横浜三中(現・県立横浜緑ヶ丘高等学校)に入学。翌年太平洋戦争が始まり、父・完一はミッドウェー海戦で戦死してしまいました。学生生活も軍事教練に明け暮れましたが、その合間に図書館(現・横浜市中央図書館)で多くの本を読み漁り、自分が最も好きな本は歴史で、それを自分で書きたいと強く思うようになっていました。

1945年3月、勤労員員の防空壕で卒業証書を受け取って間もなく、肺結核の診断を受け、家族と共に北海道の旭川に疎開。ここで終戦を迎えました。



童話を書き始める

後、父にさき後の家族を支えるため、癡養をして勤め始めます。1946年(昭和21)春、からくら洋菓子に戻り、働きながら関東学院工学校で建築を学びました。そのころ、児の世界では新しい時代を担う子供たちのよと、「赤いほん」「観羽」などの雑誌が次々に創刊されました。そうした雑誌の「童話」に投稿した「大男と小人」が採用され、これをきっかけに児童書作家として、藤原栄二に教えを受け、本格的に童話を書かなければなりません。同じように童話を愛する意図、いぬいとみこ、岸津淳吉とも知り、この仲間で1950年、同人誌「豆の木」しました。



「コロボックル物語」の誕生

戦後もなく書いた童話「失くした帽子」と「手のひらの島の物語」には、クリ、トリといふ名前の小鳥が登場します。このどちらを佐藤さるさんは、小人の物語を書きたいと思っていたときに書いたのです。幼い時からずっと心に根付いていた小人の物語です。

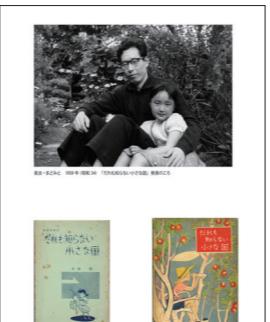
1950年（昭和25年）には、同人誌「豆の木」に「井戸のある閑谷」を発表しました。投稿料で1円で、井戸に二人の若者を描いたこの短編には、戦争をぐり抜けてでも変わらない故郷の風景、詩、歌としても輝きを失わない幼年時代への想いがあふれています。これらが作品にこめられた思いが、自然の歌の山久しに記して青年が人と成長していく物語になります。どうぞお読みください。



「だれも知らない小さな国」の出版

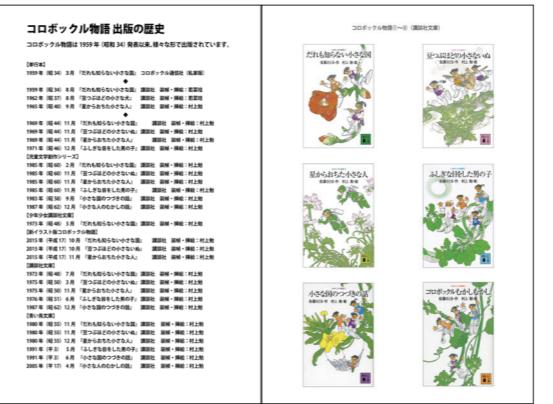
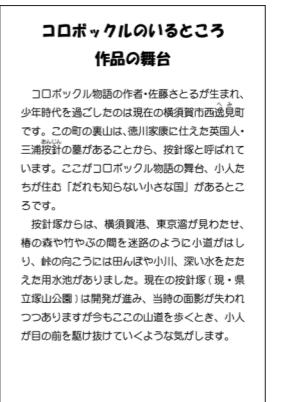
幼い時からの空想のかけらが集まってきた小さな絵画や、『心のかからだ』で、ぬめた頭をかぶって、創造者に似た立場で物語世界を創る「作業が長い瞬間されました」。「どれも知らない(ない)な国は」は1957年(昭和32)夏ついで完成しますが、平野武二に「不満があるならもう一度書き直せ」と言われ、さらに2回書き直されました。翌年夏やと書き上げますが発表する場がなく、佐藤さんとは「せめて自分の子どもには読んでもらいたい」と、自費でタイプ印刷の小さな本を作りました。

娘の誕生日を発行日としたこの本は、講談社の編集者の目にとまり、1959年8月に正式出版。コロボックル物語の第1作が、多くの読者のもとへと送り出されました。



## 村上勉が描くコロボックル

「ボックル物語」第3作『星から落ちた小さな銀星』(昭和40年)講談社の刊行は、船井の村上書が描きました。佐藤さとるのキャラクターのようで描かないっぽいし」というファンの創作理念をたどきこまれ、空想上の世界でロボットを駆使するの試験が繰り返されました。「身長は3センチ5ミリにもとまるぬ達さで走り、ジャンプする。ジンの足は蜂」という、佐藤さとるの設定させ、強烈なジャンプ力を持つコロギーに大きな脚と目を描き、ただの小人ではなく虫でもちこないかわらひ的で個性的なロボットの姿が完成しました。他の絵は、「だれも知らない小さな国」が今どきどきでコロッキーリーの生活が脈々としているような錯覚をあこさせます。



佐藤大による略年譜